

科目区分	専門分野	履修学年	2年後期	単位数	1	時間数	30
科目名	小児看護方法 I - 1			担当教員	外部講師		
使用テキスト	1) メディカ出版 小児看護学①小児の発達と看護 2) メディカ出版 小児看護学②小児看護技術 3) メディカ出版 小児看護学③小児の疾患と看護						
テキスト以外の教材・参考書等	1) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学① 小児臨床看護各論 2) 医学書院 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論						
授業の概要及び到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>実際に診察・治療にあたっている小児科の医師による講義を受けることで、具体性のある、専門性の高い内容になるようにする。小児期にみられる特徴的な健康障害及び治療について理解することを目的に、既習学習の解剖生理や小児看護概論をふまえ、健康障害のある小児の特徴についても理解できるようにする。医師の立場から小児看護に求めることも踏まえることで、健康障害を持つ小児の看護の理解につなげる。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に特徴的な健康障害について理解できる。 2. 各健康障害に対する治療について理解できる。 							
評価方法	筆記試験						
備考	関連科目：人体の構造と機能, 疾病の成り立ちと回復の促進						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	小児に特徴的な疾患と治療 1) 染色体異常・先天代謝異常 2) 代謝疾患 (1 型糖尿病)	
2	3) 内分泌疾患 (下垂体疾患、先天性副腎過形成、思春期早発症)	
3	4) 免疫疾患・アレルギー疾患 (食物アレルギー、気管支喘息、若年性特発性関節炎)	
4	5) 感染症 (ウイルス感染症、細菌感染症)	
5	6) 呼吸器疾患 (クループ症候群、急性細気管支炎、肺炎)	
6	7) 循環器疾患 (先天性心疾患、川崎病、乳児突然死症候群)	
7	8) 消化器疾患 (口唇口蓋裂、食道裂肛ヘルニア、先天性食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、	
8	潰瘍性大腸炎、クローン病、慢性便秘症、臍帯ヘルニア、臍ヘルニア、鼠経ヘルニア、胆道閉鎖症、乳幼児下痢症)	
9	9) 血液・造血器疾患 (貧血、血液凝固異常、血小板の異常)	
10	10) 悪性腫瘍 (白血病、リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、骨肉腫)	
11	11) 腎・泌尿器疾患 (糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ファンコニー症候群、尿崩症、溶血性尿毒症症候群、停留精巣、陰嚢水腫)	
12	12) 神経疾患 (二分脊椎、水頭症、痙攣性疾患、モヤモヤ病、脳性麻痺、神経皮膚症候群、髄膜炎、脳炎、筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、重症筋無力症)	
13		
14	13) 運動器疾患 (発育性股関節発育不全、内反足、斜頸、脊柱側弯症、骨折、関節炎、骨形成不全症)	
15	終講試験 まとめ解説	